

被災地派遣レポート＜第127回＞

港湾局東京港建設事務所港湾整備課 前田 洋伸さん

1. 執務環境

事務所はJR仙石線中野栄駅から歩いて約20分の仙台港国際ビジネスセンターの5階にある。組織体制は所長を含めた管理職3名のもと総務、港政及び工務の3班体制で計26名の一般職員が所属する。他県からの派遣土木職員は3名おり工務班に含まれる。事務室は幾分手狭であるが公用車台数、OA機器、備品等は充実しており執務環境は良好である。

2. 業務内容

工務班は仙台港、塩釜港の港湾施設工事の設計・施工監督を行う。現在は、被災した岸壁、防波堤等の災害復旧工事の監督業務や、新たな設計方針にもとづく防潮堤の設計検討を中心に行っている。都から派遣された職員の今年度の担当は、塩釜港にある貞山^{ていざん}ふ頭2号岸壁復旧工事と、仙台港にある高砂ふ頭小型船溜り復旧工事の工事監督業務である。私の派遣期間は平成25年7月から9月の3か月間であり、貞山ふ頭は6月に工事完了したため在任中は完了検査、施設引継等の対応を行った。高砂ふ頭は9月契約であったため現場着手する前の関係者調整を行った。防潮堤の設計検討は仙台塩釜港と県北部の石巻港、気仙沼港との被災状況の差異があるため、県で統一した設計方針の決定に時間を要している状況である。

3. 生活環境

宿舎は宮城県が借上げている多賀城市にある家具家電付きアパートの一室で、事務所まではマイカーを利用し通勤時間は約15分である。職場、宿舎とも周辺にはスーパーや外食店等が多数あり、日常生活する上で不便を感じることはなかった。

4. 派遣業務を振り返って

7月から3ヶ月間、東京の酷暑を避けるように宮城県で快適に過ごすことが出来た。在任中、現場の工事監督業務を行うことはなかったが、管内各所のほか管外の^{ゆりあげ}関上地区、名取市内、志津川港、気仙沼港の被災状況を視察することができ、状況の深刻さと復旧の立ち遅れを実感した。被災地の一日も早い復旧復興を願うとともに、今回の貴重な経験を今後の職務に活かしたい。